

道徳の授業における話し合い活動 目的・理想の話し合い・話し合いにおける配慮

1 道徳における話し合いの目的

道徳の時間のもっとも中心となる学習活動が「話し合い」です。他教科でも、調査・実験・操作結果をもとに「追究」をするために話し合います。道徳の授業の話し合いの場合は、

- (1) 価値そのものがどういうものか理解する。
- (2) 価値を自分の生活との関連で捉える。
- (3) 価値に基づいた行動を行うための自分の課題を自覚する。

の3つをかなえるために行います。

道徳の話し合いは、一定の法則や正解などの結論を極めたり解き明かしたりせず、ねらいとして取り上げた道徳的価値や自らの生き方を「追求」するために行います。

2 道徳の話し合いにおける基本的な考え方

授業の中で、資料をもとにグループや学級で話し合ったり、考え合ったりするなかで、それぞれの子供が、次の点を子供自身が確認できる話し合いになるとよいと思います。

- ① その授業でねらいとする価値について深く知ることができるようにする。
- ② 級友の見方や感じ方、考え方と共通点を知って自信を持つことができるようにする。
- ③ 相違点に気付いて新たな見方や感じ方、考え方と出会ったりすることができるようにする。
- ④ 自分見方、感じ方、考え方を広げたり、深めたりすることができるようにする。

21世紀は「知識基盤型社会」と言われています。先行き不透明で混とんとした社会を生き抜くためには、既成概念や過去の経験に頼るばかりではなく、異なる価値観を持つ人々が議論する中で新しい見方や考え方、価値観を創造することのできる力が必要だと言われます。

このようなことから、外国の中には、「話し合うことそのもの」を授業の目標にしている国もあるぐらいです。価値観の異なる人たちと話し合って新たな価値を生み出す力もこれからの社会では必要な能力です。

3 話し合う際の教師の心構え

価値について深く知る、共通点や相違点を知る、自分の見方・考え方を広げるための話し合いにするためには、指導者として次の点を意識して話し合いを仕組みるとよいと思います。

- ① 自分見方、感じ方、考え方に目を向けさせるようにする。
- ② 自分以外の多様な考え方に出会わせるようにする。
- ③ 級友の見方、感じ方、考え方との共通点や相違点が明確になるようにする。

4 話し合いに熱中させるための工夫

子供たちを話し合いに熱中させるためには、次のような工夫が役立つものと考えます。

- ① 子供が熱中できる資料の選択と開発
運動会の前に資料内容として運動会が扱われている資料を探し、思うような資料がなくて困っている先生がいます。運動会を通して「協力」を学ばせたいのなら、資料内容が運動会でなくても「協力」を学べる資料であれば構いません。内容を変えてねらう価値に迫る方が幅広く学ぶことができよいいのではないのでしょうか。
- ② 十分に話し合う時間の確保
話し合いの時間を十分に確保するためには導入にかかる時間、資料の文章量、発問の数に着目するとよいでしょう。
- ③ 補助発問まで含めた発問の工夫

場面ごとに発問をしていくのではなく、いきなり中心発問だけで話し合うことができるのなら、一つだけの発問でテーマを絞って話し合う方法もあります。東京学芸大学の永田繁雄先生提唱のテーマ発問がこれです。

④ 異なる価値観を持つ児童生徒同士を会わせる意図的な指名

日常の様子や事前調査結果から、個々の子供の価値観を予測しておき、子供同士を意図的にかかわらせることで新たな価値観に出会わせることができます。

⑤ 生徒の意見の違いを引き立たせる構造的な板書

発表された子供の考えを発表順に時系列で板書するのではなく、自律と他律、プラスとマイナス等の分け方で左右あるいは上下に分けて意見を分類して板書することで、子供同士が互いの考え方の違いを把握しやすくなります。

⑥ 動作化や役割演技など即興的で本音を引き出しやすい表現方法の工夫

役割演技（サイコドラマ）は即興性が高くなるために本音を引き出しやすい手法だと言われています。動作化は主人公と同じ動作をさせることで状況や心境を創造しやすくなるための手法です。

⑦ 話し合いやすくする机の隊形の工夫

小グループにするのなら4人がいい。6人では多すぎる。学級全体を話し合いができるようにコの字型にするのもよい。1時間中ずっと固定して授業を進めるのではなく、授業の場面において必要に応じて話し合いのグループの大きさを変えたり、机の隊形を変えたりしていくとよいでしょう。なお、小グループの話し合いを取り入れた場合は、グループで出された意見の全体への引き出し方が問題になります。司会役に話し合いの様子を発表させる方法も一つの方法です。全グループを発表させると時間がかかるので代表グループの発表に加除修正を加える方法がよいと思います。

他にも様々な方法がありますので、自分でも

考えて実践してみてください。

5 話し合いの種類と話し合いの基盤

対話（隣同士の意見交換）、バズセッション（グループ討議）、パネルディスカッション、シンポジウム、ディベート等、話し合いには様々な形があります。でも、話し合う場合には次の点を配慮し進めてほしいと思います。

- ① 全員の考えが生かされた話し合いになるようにする。（互いが自分の考えを自由に発表できる雰囲気作りや話し合いのルール作りが大切です。）
- ② 道徳の時間の特徴を外さないような話し合いにする。
 - ・相手を説得したりやりこめたりしないようにします。話し合いで出された考えはどんな意見であろうとも受け止めて、自分の価値観を補充・深化・統合するために生かすことができるよう助言してあげてください。

<参考>国語科の学習指導要領「話し合い」に関する指導事項 話し合い指導の参考になります。

第1学年及び第2学年	互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと
第3学年及び第4学年	互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら進行に沿って話し合うこと
第5学年及び第6学年	互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと
中学校 1年生	話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言に注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること
中学校 2年生	相手の立場を尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること
中学校 3年生	話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと